

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第 1 9 号
2012年9月発行



青嵐荘養護老人ホームでは、開設四十周年記念事業として「足湯」を設置しました。
足湯お披露目交流会での様子です。

もくじ

CONTENTS

雇用障害者&
指導者への取材から・・・2
委員会トピックス・・・2

私たちに出来ること... ～被災地支援活動報告～

理学療法士の支援活動・・・3
社会福祉士の支援活動・・・3
管理栄養士の支援活動・・・3

高齢者施設トピックス

養護老人ホーム・・・4
特別養護老人ホーム・・・4
ケア・アシスタンス・・・4

暑さに負けない

2 託児所子どもたち・・・5
補助事業報告
保育環境を変えて・・・5

エコ・リサイクルの輪∞

花壇管理ボランティア・・・5
エコキャップ受領報告・・・6
つながり∞ふくしま・・・6
芳香会スケジュール・・・6
編集後記・・・6



2011年3月11日に発生した東日本大震災において被災された皆様に、改めて心より
お見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

雇用障害者&指導者への取材から



平成二十四年七月二十日(金)、「独立行政法人高齢・障害・就業者雇用支援機構」から当法人の障害者雇用について取材をしていただきました。そこでこのトピックスでは、取材の中でお話した内容の一部を抜粋してご紹介します。

現在、当法人には、八名(女性六名・男性二名)の知的障害者が就労しています。最長十五年、最短六ヶ月、平均八年半と就労期間が長くなってきています。八人は、特別支援学校高等部卒業の職員が殆どです。ここ数年で仕事にも大分慣れ、仕事の種類も任せられる内容が増えてきました。また八名は、それぞれの配属先が異なっていることから、以前より全員を対象とした交流会や学習会を行ってきました。現在ではそれに加え、障害者指導相談員が中心となり、宿泊研修会を隔年ごとに実施するようになりました。

第一回目は「知的&精神障害者就労支援施設の見学」、第二回目は「企業の障害者多数雇用会社の視察見学」、そして第三回目となる今年度は、「社会生活の経験として電車を利用し、障害者主体の音楽祭の視聴と科学館見学コース」を企画しました。九月二十二〜二十三日に実施となります。

これまでは、レンタカーによる移動等全てのことを準備してもらった研修企画でした



平成20年度研修旅行
機織りに挑戦

が、今回は自分たちで食事場所を決めたり、二日間の金銭管理を行ったりと、本人たちの日々の生活力を把握する機会にすることを目標としました。事前説明会では、少し不安な表情もありましたが、楽しい研修旅行になることを信じています。

さらに十一月には雇用障害者の皆が一同に介し、共同の清掃作業を行うことを目標とし、新たな企画をしています。このことも皆の協力により、実行できると信じています。



平成22年度研修旅行
熱心に説明を聞いています

理事長 宇留野 光子

苦情受付体制委員会とは

芳香会内の全事業所では、提供する福祉サービスにかかるご利用者・ご家族からの苦情を的確に解決し、満足度を高め、ご利用者個人の権利を擁護するとともに、苦情をサービス改善のきっかけとして捉えサービスの質の向上させることを目的として、苦情受付体制を整えています。

私たちが苦情受付体制委員会は、こうした法人内の苦情受付体制の整備や取り組みを推進すべく活動を行っています。主な活動内容としては、年三回開催される苦情受付第三者委員会の実施や、職員の経験年数に応じた苦情に関する研修会の開催、各事業所の受付体制整備状況のチェック等を行っています。

苦情受付体制委員会トピックス

平成二十四年度の活動として、さる七月十日(火)、新任職員を対象とした「芳香会の苦情受付体制と苦情に対する取り組みを学ぶ」研修会を開催しました。

芳香会の苦情に対する体制整備状況の説明や、なぜ苦情に対する取り組みが必要なのかを学び、今後の業務に活かして頂けることと思います。研修後には「法人内の体制がよく理解できた。」「苦情に対する意識高揚や苦情をサービス改善、向上に繋げる大切さを理解した。」という意見が寄せられました。



また、七月二十四日(火)には上大野地区、二十五日(水)には結城・尾崎地区の苦情解決第三者委員会を開催しました。平成二十四年二月〜六月末までに受け付けられ、処理された「上大野地区で二件」「結城・尾崎地区で四件」の苦情が、第三者委員会に報告されました。第三者委員の方々から頂いたご意見やご助言を参考に適切に対応をしていきます。

今後の活動は、職員研修として平成二十四年十一月期に実務経験一〜二年の職員を対象とした研修会と、平成二十五年二月期に実務経験五年以上の職員を対象とした研修会を予定しています。また苦情解決第三者委員会につきましても、地区別開催を平成二十四年十二月期、合同開催を平成二十五年三月期に予定しています。

苦情受付体制委員長

芳香会病院青嵐荘療育園 副施設長 菅谷 勉

私たちに出来ること

～被災地支援活動報告～

平成二十三年三月十一日に発生した大震災以降、芳香会では「私たちに何が出来るのか？」を常に考え、様々な支援活動に取り組みました。その中でも今回は、法人内の各専門職がその専門性を活かして取り組んで参りました支援活動の報告をさせていただきます。

理学療法士の支援活動

七月二十三日から五日間、岩手県大槌町で行われている「楽らく体操」に参加し、リハビリ専門職として体操のお手伝いや身体の不安な事（膝・腰痛や足の痺れ等）に対する相談を受ける活動をしてきました。参加者の血圧・体組成・握力測定のお手伝いや体操の時間に「家庭でできる簡単な体操」を紹介させていただき、仮設住宅の皆さんが温かく迎えてくれ、とても充実した活動ができました。「一番の支援は、物をもろうことではなく



大槌町のことをずっと忘れてないでいてくれること」という町の方の言葉がとても印象的でした。これからも支援活動に微力ながら尽力したいと思います。

青嵐荘ケア・アシスタンス
理学療法士 宮川 誠

社会福祉士の支援活動

日本社会福祉士会では、平成二十三年四月一日から被災地の地域包括支援センター（高齢者を中心に地域の総合相談を担う機関）等の後方支援のため、社会福祉士を派遣しています。芳香会からは現在まで十四名の社会福祉士が活動に参加してきました。

私はこれまで五回（宮城県石巻市、岩手県山田町）活動に参加しました。昨年八月の石巻市では、避難所の高齢者が仮設住宅に移るための調整相談をしました。仮設住宅の各種手続きや引っ越しの手配などを高齢者が一人で行うのは難しく感じました。同年十一月、今年の二月は山田町で、仮設住宅への支援が手厚くなる一方自宅生活している六十五歳以上の方へは支援が手薄であることが分かり、自宅で生活される高齢者の方を訪問し実態把握を行いました。家が流されて親類宅の納屋に住んでいる方は、仮設以外への支給は何もないと話されていました。今年八月と九月も山田町で活動しました。今年八月と九月も山田町で活動しましたが、仮設ごとに自治会が発足し始めていきましたが、一方で孤立を防ぐための地域のネットワーク作りが必要とのことで、ネットワーク作りの支援をしてきました。

五回の継続的な活動を通し、これからも被災地の復興の状況に合わせた支援が必要であると実感しました。一日でも早い被災地の復興を願っております。

介護保険支援センター
青嵐荘（結城）
係長 野村幸代

管理栄養士の支援活動

一年半前に導入した真空調理法を活用し、震災直後より被災地に向けて様々な形の食事支援をさせて頂きました。

現在は岩手県陸前高田市内で定期的に開催されている「お茶っこサロン」のお茶うけのおかずと、上閉伊郡大槌町のおかずと、上閉伊郡大槌町の仮設住宅在住の高齢者への個別支援を継続的に実施させて頂いております。調理は法人内の栄養士八人で実施しておりますが、時間や保存場所の問題で大量調理が難しく、小さな支援をコツコツと継続して一年が経過しました。今年三月には支援先の皆様と直接お会いする機会を頂き、小さな支援でも継続することの大切さや、自分たちの支援が必要としてくれる人がいることの喜びも感じました。



何かしたいけれど、と悩んでいる人が沢山いる中、私たち栄養士はこの様な活動をさせて頂けて、感謝の言葉も頂けました。活動に関する全ての人に感謝しながら今後も細く長く継続していければと思っております。

青嵐荘ケア・アシスタンス
栄養係長 北條 早苗



大震災から約一年半が経過し、求められる支援が変化していく中で、社会福祉法人として何が出来るのか。これからも芳香会は東日本大震災の支援を継続して参ります。

高齢者施設トピックス

青嵐荘養護老人ホーム 足湯お披露目交流会

養護老人ホームでは開設四十周年記念事業として、敷地内に「足湯」を設置致しました。これはご利用者や職員だけでなく、地域の方にも気軽に来ていただき、日常的な交流をする機会を持つためのきっかけとなるようにとの想いで設置しました。足湯は井戸水をポンプで汲み上げ、ポイラーで沸かす方法です。発電機を設置して稼働させることが可能となっておりますので、災害時にも活用できるようになっています。

地域の方々に足湯を積極的に利用していただくため、七月八日(日)に七五三場地区老人会の方々に招待し、足湯お披露目交流会を開催致しました。交流会はテープカットから始まり、実際に足湯を利用していたいただきました。



ちよつと熱めのお湯でしたが、利用された方からは「足が軽くなった」などの感想をいただいております。ご利用者も地域の方と一緒に足湯につかりながら談笑され、楽しい時間を過ごすことができました。また、余興の青嵐荘と七五三場地区に関するクイズでは、皆さん夢中でクイズの答えを考えていました。

今回の交流会は、私たち職員も地域の方々から直接話を伺う良い機会でした。地域の方の話

の中には、地域との関わり方や取り組みのヒントがあるのではないかと思います。この足湯をひとつのきっかけとして、地域の方との交流を深めながら、新たなつながりを築いていきたいと思えます。

特別養護老人ホーム 口腔ケアを学ぶ

平成二十四年七月四日(水)、ファミリー歯科医院 八木原淳史理事長を講師にお招きし「口腔ケア講習会」を開催いたしました。

当日は、特別養護老人ホームや結城地区在宅事業所等の介護職を中心とした合計四十四名の職員が参加し、高齢者の口腔衛生を保つための基本を学びました。実例を挙げてのご講義であり、日頃のケアに結び付けながらご利用者の口腔ケアの見直しを行いました。参加者からは継続して学習したいとの声が多く、今年度は全三回の講習会を行う予定です。

「元気に暮らすこと」と「食べること」は深い関わりがあり、当施設で取り組んでいる自立支援介護の一つの柱にも「食事の常食化(ご飯と形のあるおかずをしつかり噛んで食べる)」があります。「食べる」という一連の流れは噛むことから始まるため、噛む機能が重要であり、噛む機能の維持には、口腔機能を整え維持することが大切です。そのために口腔ケアは欠かせることができません。更に口腔衛生を保つことで様々な病気を予防することができます。



自宅で生活されている高齢者の方々にも口腔ケアの正しい方法を知っていただき、一人でも多くの方に元気に過ごしていただけるよう、今後も学びを深めていきたいと思えます。

青嵐荘ケア・アシスタンス ロング巻き寿司への挑戦

ケア・アシスタンスでは平成二十一年度から六月に「父の日会」を実施しています。今年度は六月十三日(水)に実施し、男性のご利用者全員でロング巻き寿司作りに挑戦しました。昨年度作った巻き寿司は「六十八センチ」の記録を打ち立てましたが、記録の更新を目指して再度挑戦です。

ご利用者の目の前にはロング巻き寿司作り専用のすだれを並べ、その上に海苔、ごはん、具材の桜でんぶや厚焼き玉子、キュウリ、油揚げを順番に乗せていきます。海苔ではうまく食べられないご利用者の為に、昆布シートでも作りました。



緊張の瞬間は巻く時です。一同の息が合わないときれいに巻く事が出来ません。「いち、二の、さん!」と大きい掛け声と共に一気に巻きました。少しばらつきが出た所もありましたが、きれいに出来上がりました。巻き寿司の長さは二百八十七センチと、昨年度の記録を大幅に更新し、ご利用者、職員共に喜びの拍手が起きました。

今後も楽しく過ごせる行事をご利用者と一緒に考え、行っていききたいと思っております。

暑さに負けない 事業所内保育施設



暑さなんて、なんのその。

ギリギリ照りつける太陽の下で、汗を流しながら元気いっぱい遊ぶ子どもたち。保育士の「プールやろうね。」の声掛けに、大喜びで水着に着替えます。準備体操も元氣良く行いプールにダイブ！施設内に子どもたちの笑い声が聞こえてきます。始めは水を嫌がっていた子も、遊びを重ねる内に頭から水をかぶったり、腹ばいで泳げるようになったりと成長していく姿を見せてくれました。プールの他に、スイカ割りや草花を使った色水遊び、ポディーペインティングなど暑い夏ならではの遊びを満喫しました。



夏は特に体力の消耗が激しい季節ですので、栄養・睡眠・運動のバランスを考え、暑さに負けない丈夫な体作りを心がけてまいりました。

ひばり開設から六年目、ツグミは三年目、いつも変わらず子供たちの元気な声が聞こえます。今後も健康管理に留意しながら、子ども達が様々なことに興味を持ち、楽しく安心して過ごせるよう日々考え保育をしてまいります。

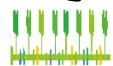


ひばり開設から六年目、ツグミは三年目、いつも変わらず子供たちの元気な声が聞こえます。今後も健康管理に留意しながら、子ども達が様々なことに興味を持ち、楽しく安心して過ごせるよう日々考え保育をしてまいります。



補助事業報告

保育環境を変えて



芳香会で運営する保育園は、二つの保育園ともに設置後三十年以上の時が過ぎました。平成二十一年度&二十三年度分として、国と市の補助金を受け、大規模改修工事を行うことができました。工事を開始するにあたり、どのような保育を展開してゆくのかを明確にし、子どもの動きと保育士のかかわり等様々なことを考える良い機会にもなりました。

新しい取り組みとして、第一に、幼児三〜五歳児の異年齢保育の導入をしました。年齢別保育とは異なり、相互の人間関係が生まれ、のびのびとした遊びの展開が生じています。

第二に、保育室の空間を広くとり、子ども達が遊びに集中できる環境を重視しました。特に睡眠&食事の分離については、その空間を全ての園児に確保しました。今回は増築をせずに、従来の建物を改修する範囲ですので、広くとは言え、限界もありました。

第三に、オープン化した保育室でチーム保育を重視し、複数の職員が相互に考え、提案しあう保育の実践をめざしました。現在もチーム連携の大変さを経験してもらっています。

第四に、園舎内や周辺に

牛ヶ谷保育園 保育室
壁を取り払い、広くなりました。



は生物や植物を常時、園児の目に入るようにし、園児たちが興味をもてるような種々の形を取り入れました。どちらの保育園とも、環境は新たになりましたが保育士の日々の仕事は、まだまだ未熟です。子どもたちの笑顔をベースに子どもの新しい可能性を発見していきたいと考えます。



Eco・リサイクルの輪

芳香会では、地域貢献・地域活性化をめざし様々な活動を行っています。そのなかでもEco・リサイクル活動は、地域の皆さんとの『繋がり』を築く重要な活動となつて参りました。そんな広がる活動の輪をご紹介します。

その① 花壇管理ボランティアの活動

上大野グラウンド前の花壇は平成二十一年度から整備をはじめ、現在では水まきホースの整備等、管理しやすい状態まで復帰しています。そこで平成二十四年度夏季から、維持を目的として一緒に美化活動に取り組んで頂ける方を募集した所、「上大野老人クラブ」の皆さんにご協力を頂くことができました。

活動は雨天時とお盆期間を除く、七〜九月の月曜日。日中を避け午後四時からの開始としましたが、猛暑の今年には参加が難しいのではと不安に思っていました。しかしすべての実施日に、延べ一三名の方に参加頂きました。ありがとうございました。この活動は冬季も継続すべく計画して参ります。



その② エコキャップ受領報告

平成二十年十月期より開始しましたエコキャップ活動は、累計数が百三十万個を越え、約二百人分のポリオワクチン購入費用となっております。茨城県内でも十番前後の回収量となっております。これは職員・ご利用者だけでなく、近隣の皆様にご協力を頂いている賜物です。

さる六月二十一日(木)には、「上大野小学校の皆さん」が一年間をかけて集めて頂いたキャップをお預かりしました。上大野小学校の皆さんとは「上大野グラウンド前の花植え活動」や「廃品回収」をともに行って参りましたが、学校全体と協力した初の活動となりました。ご協力を頂いたキャップは、約二万三千個分、ポリオワクチン約三十人分になります。私どもで回収したものとあわせてリサイクル業者へ持ち込ませて頂きました。ご協力ありがとうございました。



その③ 「つながりふくしま」への協力

「つながりふくしま」とは、福島第一原発周辺にある八つの施設・作業所が集まってスタートしたプロジェクトです。販売しているカンパチには、ひまわりの種が二個付いており、それを育て・回収することで大地の除染試験や精油事業につなげていく企画が行われています。平成二十四年四月、芳香会では「つながりふくしま」に協力するため、カンパチの購入を行いました。各施設のご利用者ご家族や職員にも協力購入をして頂きました。その後、被災地支援活動と植栽活動の一環と

して、ひまわりを栽培し、種を収穫しようと思気込んでスタートし、適した土壌を整えることさえ難しい状態でした。

そんな中、「(有)森ファームサービスマン」のご厚意で荒地が耕されました。無事に花を咲かすことができませんでした。収穫した花からの種採り作業は、養護老人ホームのご利用者が率先して行ってくださいました。細かな手作業をありがとうございました。お陰様で約十六万個の種が収穫できています。

取りまとめた種は、福島県南相馬市へ届けて参ります。この活動が福島の実現につながっていきなす。



芳香会スケジュール

十月	二日	交通安全講習会
	五日	防災研修事前学習会
	十五、十六日	南相馬へひまわり配達事業
	下旬	古河市芸術祭への参加
十一月	上旬	社用車実務研修会
	中旬	県西自動車学校 第二回 移動献血事業
	十三日	理事・評議員会
	十七日	第二回 苦情受付体制委員会 主催研修会
十二月	二十九日	第一回 中堅職員研修会
	三十一日	実務研究発表会
	三十一日	福祉施設対象 防災研修会

つくば国際会議場

編集後記

めまぐるしく変化する諸外国の状況。地球温暖化による気候の変化。そして人々の心の変化。しかし被災地の方々の生活の変化は目に見えにくい。今号にも被災地活動を掲載しましたが支援を継続することの難しさを痛感します。(光)

お盆期間中に被災地支援に行ってきた。八歳代のお年寄り、戦時中のお話をした際、「あの何もない時代を生きてきたんだから、今度の津波くらいではまだ大丈夫」とお聞きしました。日本人の強さを感じます。(加)

年をとると一年が早くなくなったという話を耳にしますが、実際どの位早くなったのかご存知ですか。心理学によると心理的時間の長さは年齢の逆数に比例するとの事。私の時間は小学生の約三倍で流れています。(川)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp